

私のカルテ

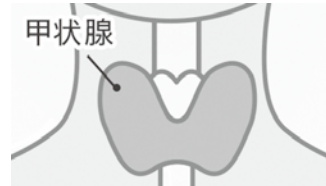
No 3 9 3

甲状腺疾患について

津島市民病院
内分泌内科医師佐々木
智之

甲状腺とは

甲状腺は、首の前面にある蝶が羽を広げたような形をしている臓器であり、そこから生体の正常な成長や発達、代謝に必須である甲状腺ホルモンを産生しています。採血では甲状腺ホルモン(free T3, free T4)と頭部にある下垂体から放出される、甲状腺ホルモン分泌を促す甲状腺刺激ホルモン(TSH)を見ることで甲状腺機能に異常がないかがわかります。甲状腺疾患にはさまざまなものがありますが、女性に多く発症するとされており、その中で頻度が高いものとして、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍があります。



バセドウ病

バセドウ病は血液中に存在する抗TSH受容体抗体(TRAAb)が、甲状腺膜上に発現するTSH受容体を持続的に刺激する結果、甲状腺が腫大し、甲状腺から多量の甲状腺ホルモンが分泌され、動悸、頻脈、手の震え、下痢、体重減少などの症状が現れます。採血ではfree T3, free T4が上昇し、TSHが低下します。採血と甲状腺エコーにて診断し、基本的には薬物治療になりますが、放射線治療や手術を行うこともあります。また、内服中断等を原因として甲状腺ホルモンのコントロールが不良な状態だと、感染・手術・ストレスなどを契機に意識障害、発熱、心不全などを呈する甲状腺クリーゼを発症するリスクがあり、致死率は10%程度であり非常に危険です。

橋本病

橋本病は抗甲状腺ペルオキシダーゼ(TPO)抗体、抗サイログロブリン(Tg)抗体により免疫の異常が生じて甲

状腺が腫大、甲状腺細胞が破壊される結果、甲状腺ホルモンの合成が阻害され、だるさ、寒気、便秘、体重増加、むくみなどの症状が現れます。採血ではfree T3, free T4が低下し、TSHが上昇します。バセドウ病と同様に採血と甲状腺エコーにて診断します。橋本病は薬物治療が行われ、内服継続ができていれば予後は一般に良好とされています。

甲状腺腫瘍

甲状腺腫瘍は首にしこりを自覚したり、健康診断や画像検査の際に偶然見つかることが多くあります。腫瘍には良性と悪性があり、主に採血、甲状腺エコー画像と穿刺細胞診(腫瘍に針を刺して細胞を調べる検査)により良性か悪性かを判断します。良性の場合は採血と甲状腺エコーを定期的に行い経過観察となります(腫瘍が大きい場合は手術を検討することもあります)。悪性の場合は基本的に手術を行います。

その他

その他の甲状腺疾患としては妊娠中にみられる妊娠性一過性甲状腺機能亢進症、一時的に甲状腺に炎症が起きる亜急性甲状腺炎や無痛性甲状腺炎などさまざまなものがあります。また、薬剤の副作用により甲状腺機能異常が見られることもあります。

最後に

甲状腺疾患は自覚症状がさまざまであり、体調不良の原因が甲状腺であると患者さん自身で気づくことは困難です。甲状腺疾患は病院での検査により初めて診断できるので、何かしらの体の異常があれば病院を受診するようにしましょう。